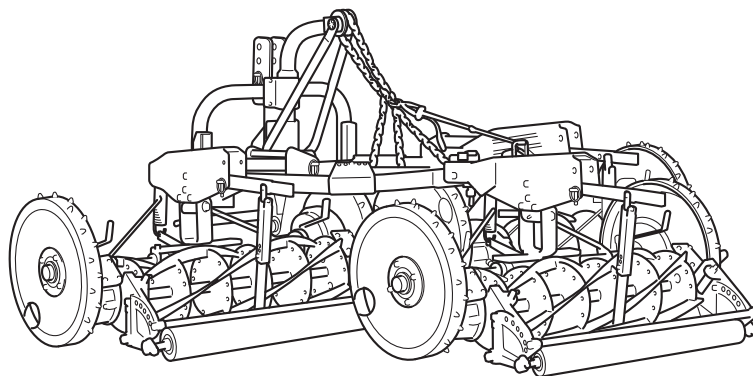


LM30B・LM30RB

ギヤングモア

取扱説明書



Serial No. LM30B : 12972- ・ LM30RB : 14532-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS[®]
Quality on Demand

Ver.2.0

LM30B・LM30RB

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽にバロネス販売代理店または弊社にお問い合わせください。


お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しください。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

 696cq5-001	危険警告記号
<p>この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。 いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。 これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。</p>	
<p>⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。</p> <p>⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。</p> <p>⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。</p> <p>重要 製品の構造などの注意点を示しています。</p>	

はじめに

使用上の注意

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。

純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・ バロネス製品の取扱説明書
- ・ トラクターの取扱説明書

使用目的

この製品は、ゴルフ場の芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-4
規制ラベル	Page 3-5
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-6
取り扱い説明	Page 4-1
トラクター	Page 4-2
取り付け前の調整	Page 4-2
点検	Page 4-5
締め付けトルク	Page 4-7
使用前の調整	Page 4-10
操作方法	Page 4-12
移動	Page 4-12
刈り込み	Page 4-13
運搬	Page 4-14
保管	Page 4-14
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-2
グリースアップ	Page 5-3
メンテナンスの方法	Page 5-6

目次

安全上の注意事項 Page 1-2

トレーニング Page 1-2

運転の前に Page 1-2

運転操作 Page 1-2

保守と保管 Page 1-3

けん引 Page 1-3

安全

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転や検査を重ねた上で出荷しております。事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。この製品を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。トレーニングはオーナーの責任です。
4. 正しい運転知識のない方には機械を操作させないでください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。

2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 複数のカッティングユニットを持つ機械では、1つのカッティングユニットを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。

運転操作

1. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
2. 以下のような状況になった場合には、エンジンを停止してください。
 - [1] 刈高を調整するとき。ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - [2] 詰まりを取り除くとき。
 - [3] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - [4] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
3. 回転部に手足を近づけないでください。
4. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
5. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
6. 作業機を使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けないようにしてください。また作業中は機械に人を近づけないでください。
7. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、輪止めをして行ってください。強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業機を下げ、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。
また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
3. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
4. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
5. リールカッターとベッドナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。
 - [1] リールカッターとベッドナイフに触れるときは、必ず手袋を着用してください。
 - [2] 刃合わせ調整中は、リールカッターとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
6. 複数のカッティングユニットを持つ機械では、1つのカッティングユニットを回転させると他にも回転する場合がありますので注意してください。
7. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
8. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
9. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。

けん引

1. 重量制限と使用傾斜角度については、けん引車両と機械の数値が異なる場合があります。
小さい方の数値に準じてください。

リサイクルおよび廃棄処分Page 2-2

リサイクルについて Page 2-2

廃棄処分についてPage 2-2



廃棄

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page 3-2
仕様表	Page 3-2
ギャングモアの構成	Page 3-3
各部の名称	Page 3-4
規制ラベル	Page 3-5
規制ラベル貼付位置	Page 3-5
規制ラベルの説明	Page 3-5
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-6
警告ラベルと指示ラベルについて	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベルの説明	Page 3-6

製品概要

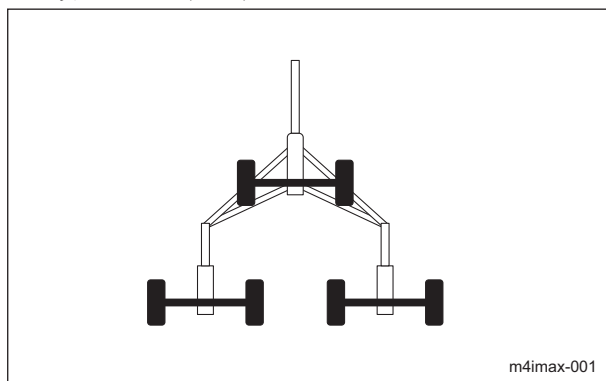
仕様

仕様表

型式	LM33BD	LM33RB	LM35BD	LM35RB	LM33MD	LM33MR	
連結方式	けん引タイプ	←	←	←	つり上げタイプ	←	
カッティングユニットタイプ	Fタイプ	Rタイプ	Fタイプ	Rタイプ	Fタイプ	Rタイプ	
モアユニット	型式	LM30B	LM30RB	LM30B	LM30RB	LM30B	LM30RB
	モアユニット数	3	←	5	←	3	←
寸法	全長	273 cm	←	345 cm	←	165 cm	←
	全幅	235 cm	←	371 cm	←	235 cm	←
	全高	-	-	-	-	-	-
質量	総質量	410 kg	←	660 kg	←	420 kg	←
	モアユニット	318 kg	←	530 kg	←	318 kg	←
ギヤケースグリース容量	800 g (1 ケースあたり)	←	←	←	←	←	
作業幅 (刈幅)	212 cm	←	337 cm	←	202 cm	←	
作業範囲 (刈高)	15 - 50 mm	←	←	←	←	←	
リール刃数	7 枚	5 枚	7 枚	5 枚	7 枚	5 枚	
駆動方式	作業部	メカ方式	←	←	←	←	
作業速度	8 - 10 km/h (条件による)	←	←	←	←	←	
適応トラクター	33.1 kW (45.0 PS) 以上	←	←	←	←	←	
装着方式	トラクターけん引ヒッチ	←	←	←	トラクター3点リンクつり上げ式	←	
能率	16,960 m ² /h (10.0 km/h x 刈幅 x 0.8)	←	26,960 m ² /h (10.0 km/h x 刈幅 x 0.8)	←	16,160 m ² /h (10.0 km/h x 刈幅 x 0.8)	←	

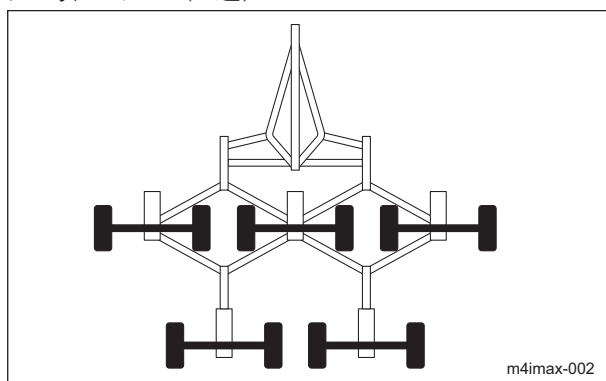
ギヤングモアの構成

けん引タイプ (3連)



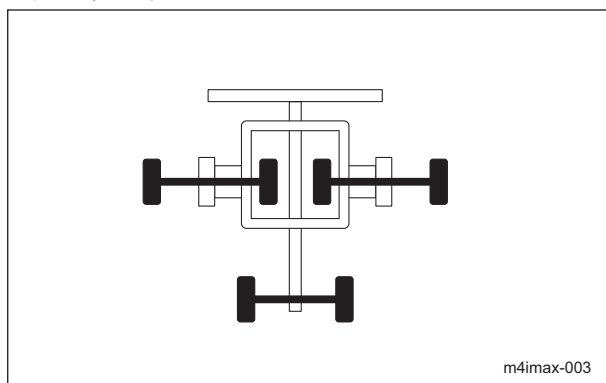
ギヤングモアの構成_001

けん引タイプ (5連)



ギヤングモアの構成_002

つり上げタイプ

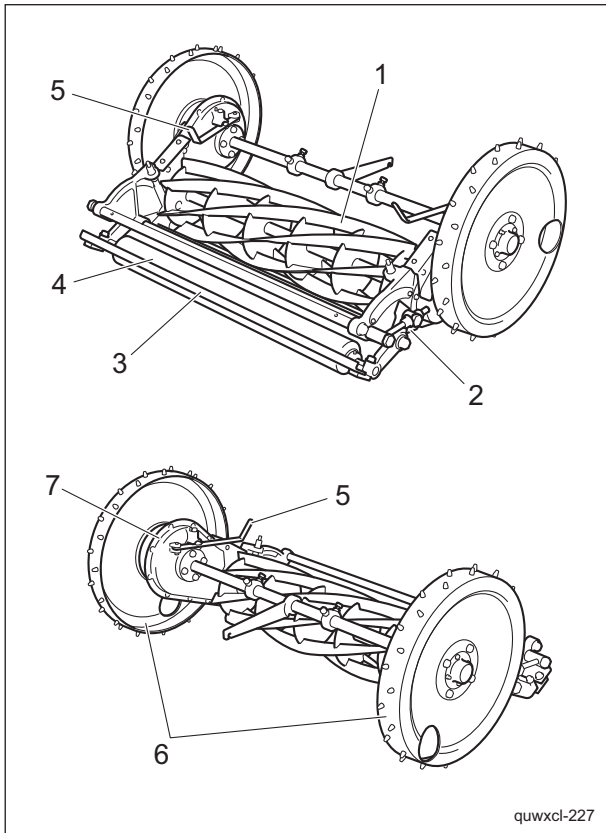


ギヤングモアの構成_003

製品概要

各部の名称

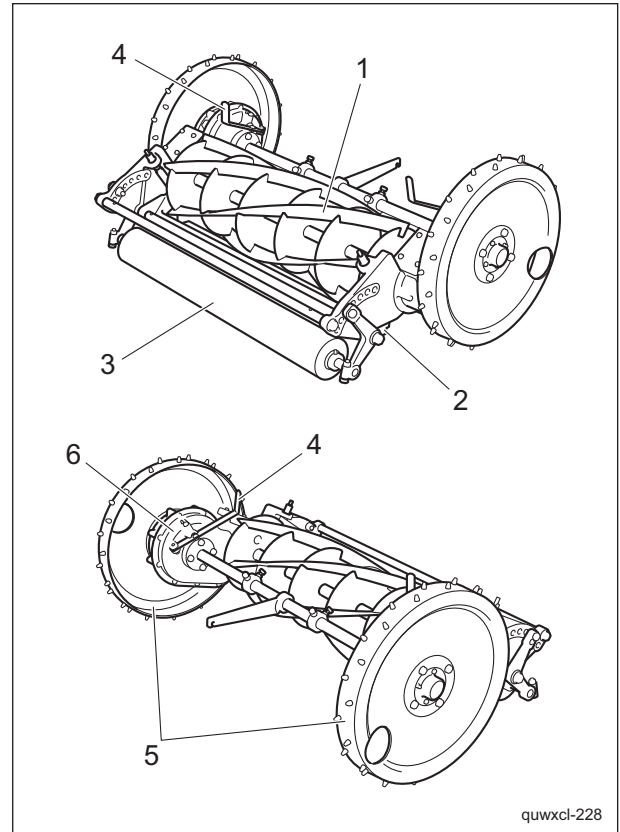
Fタイプ：



各部の名称_001

1	リールカッター
2	ベッドナイフ
3	土落とし金
4	ローラー
5	リールクラッチレバー
6	鉄車輪
7	ギヤケース

Rタイプ：



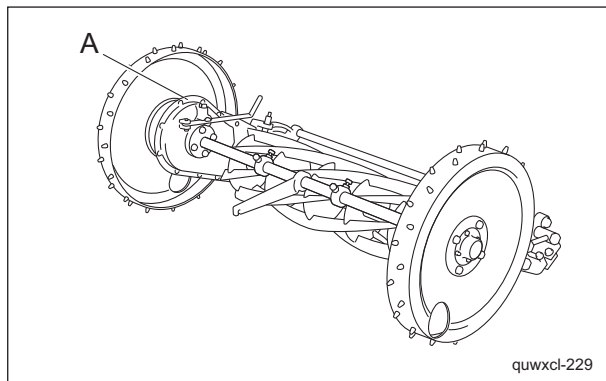
各部の名称_002

1	リールカッター
2	ベッドナイフ
3	ローラー
4	リールクラッチレバー
5	鉄車輪
6	ギヤケース

規制ラベル

規制ラベル貼付位置

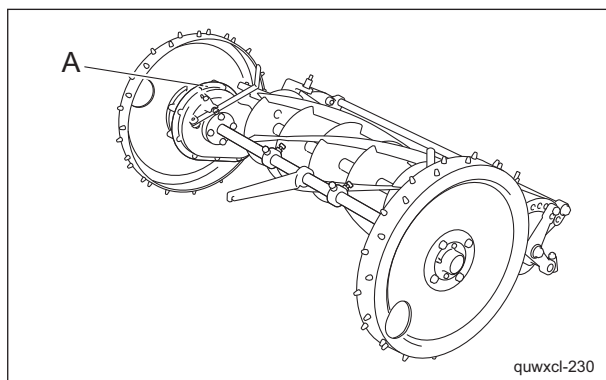
Fタイプ：



規制ラベル貼付位置_001

A 機番プレート

Rタイプ：



規制ラベル貼付位置_002

A 機番プレート

規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、機種名と機番が記載されています。

Fタイプ：



機番プレート_001

Rタイプ：



機番プレート_002

製品概要

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

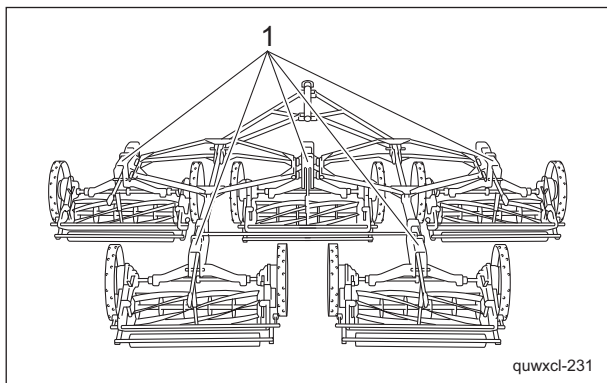
重要

この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。
販売代理店または弊社に注文してください。

警告ラベル・指示ラベル貼付位置

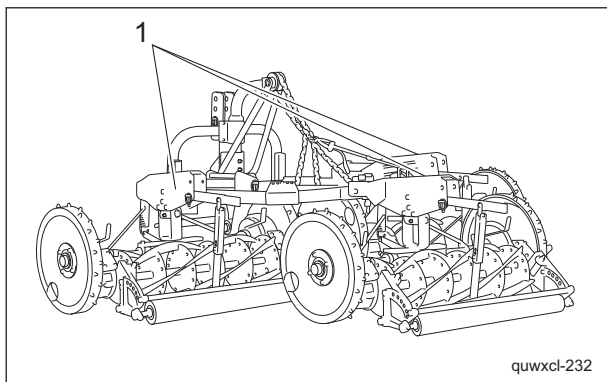
けん引タイプ



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001

1	リールモア危険マーク
---	------------

つり上げタイプ



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_002

1	リールモア危険マーク
---	------------

警告ラベル・指示ラベルの説明

リールモア危険マーク

K4205000330

リールモア危険マーク

警告

手足を切る - 刃が回転しているときは機械から離れてください。

注意

飛散物 - 人を機械から遠ざけてください。



v6w34n-007

リールモア危険マーク_001

トラクター	Page 4-2
トラクターの規格	Page 4-2
トラクターの準備	Page 4-2
取り付け前の調整	Page 4-2
取り付けに関する注意	Page 4-2
作業機部の取り付け方法	Page 4-3
点検	Page 4-5
点検に関する注意	Page 4-5
リールカッターとベッドナイフ	Page 4-5
ローラー	Page 4-5
鉄車輪	Page 4-5
油漏れ	Page 4-6
締め付けトルク	Page 4-7
標準締め付けトルク	Page 4-7
重要締め付けトルク	Page 4-9
使用前の調整	Page 4-10
調整に関する注意	Page 4-10
刃合わせ調整	Page 4-10
刈高の調整	Page 4-10
操作方法	Page 4-12
リールクラッチレバー	Page 4-12
移動	Page 4-12
移動時の注意	Page 4-12
移動操作	Page 4-12
刈り込み	Page 4-13
作業時の注意	Page 4-13
刈り込み操作	Page 4-13
運搬	Page 4-14
運搬方法	Page 4-14
保管	Page 4-14
長期保管について	Page 4-14

取り扱い説明

トラクター

トラクターの規格

作業機の3点リンク装着システムは、「標準3点リンク」を採用しています。

「標準3点リンク」は、トラクターのトップリンクとジョイントを手で取り付けます。

トラクターの準備

けん引タイプ：

けん引タイプの取り付けは、トラクターのけん引ヒッチを使用します。

つり上げタイプ：

つり上げタイプの取り付けは、トラクターの3点リンクを使用します。

⚠ 注意

トラクターの取扱説明書「3点リンクの規格」をよく読んでください。

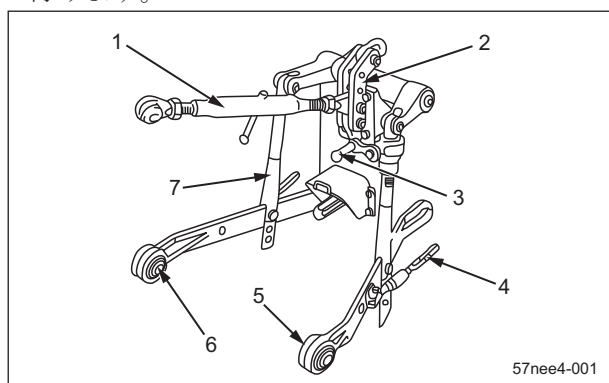
重要

トラクターの3点リンクは、標準3点リンク規格以外は装着できません。

1. 特殊3点リンク規格の場合は、特殊3点リンク用トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の物に交換してください。

両端にねじが付いていて、全長の調整ができるトップリンクを使用してください。

リフトロッドは、ローワーリンクの前穴に取り付けます。



トラクターの準備_001

1	トップリンク
2	トップリンクブラケット
3	レベリングハンドル
4	ターンバックル
5	右ローワーリンク
6	左ローワーリンク
7	リフトロッド

2. 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取り付け穴位置を上下の穴に移して、調整してください。

- ・上の穴は上がり量が増えます。
- ・下の穴は下がり量が増えます。

取り付け前の調整

取り付けに関する注意

⚠ 警告

トラクターの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。

⚠ 警告

作業機の下へもぐったり、足を踏み入れたりしないでください。

⚠ 警告

作業機の装着をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してから行ってください。

⚠ 警告

作業機を装着したときは、トラクターメーカー純正のバランスウェイトを付け、バランス調整をしてください。
バランスを崩して転倒するおそれがあります。

⚠ 注意

作業機の脱着は平坦で安定した場所で行ってください。

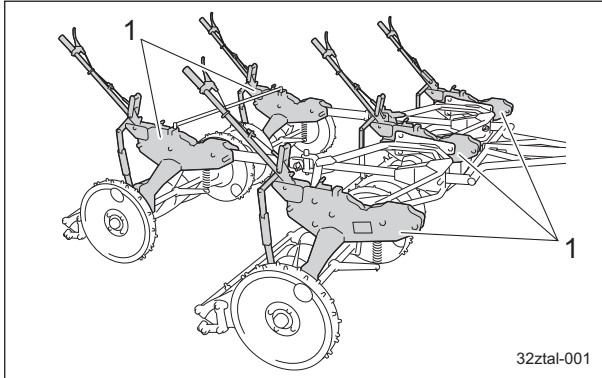
⚠ 注意

作業機は非常に重いので、脱着は2人以上で行ってください。

作業機部の取り付け方法

けん引タイプ

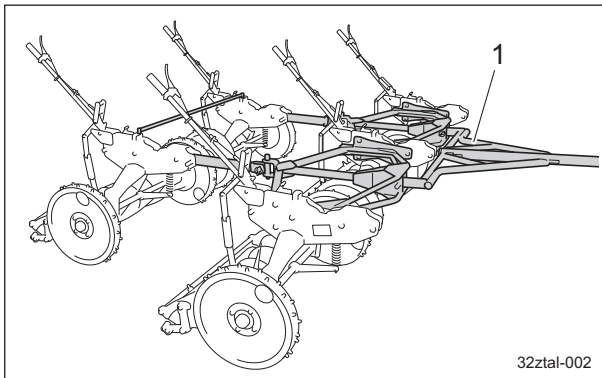
1. 各モアユニットにモアフレーム部を取り付けます。



けん引タイプ_001

1	モアフレーム部
---	---------

2. 各モアユニットを連結フレーム部に取り付けてモアユニットを連結します。

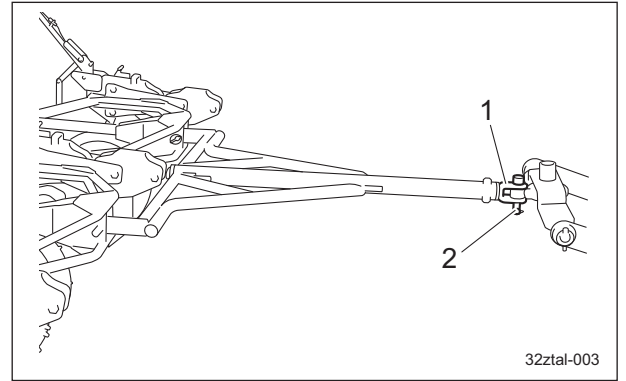


けん引タイプ_002

1	連結フレーム部
---	---------

3. 連結した作業機を平坦で安定した場所に置きます。
4. 作業機に向かい、トラクターを後進させて作業機取り付け部の中心に位置を合わせます。
5. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止します。
6. トラクターに車輪止めをします。

7. けん引金具をトラクターのけん引ヒッチに連結して、ロックします。



けん引タイプ_003

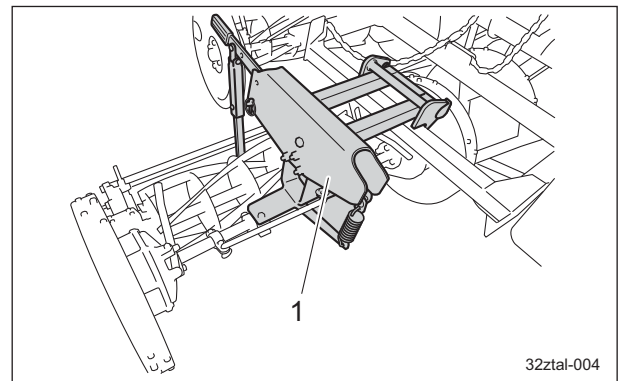
1	けん引金具
2	リンクピン

参考：

作業機の取り外しは、取り付け手順の逆の方法で行います。

つり上げタイプ

1. 各モアユニットにモアフレーム部を取り付けます。

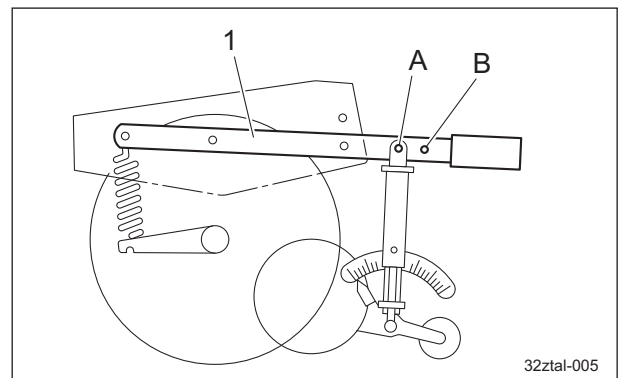


つり上げタイプ_001

1	モアフレーム部
---	---------

参考：

カッター持ち上げ金具の取り付け位置は、FタイプとRタイプで異なります。

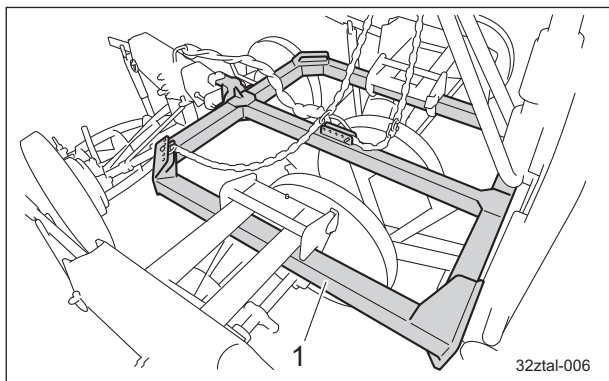


つり上げタイプ_002

取り扱い説明

1	カッター持ち上げ金具
A	Fタイプ
B	Rタイプ

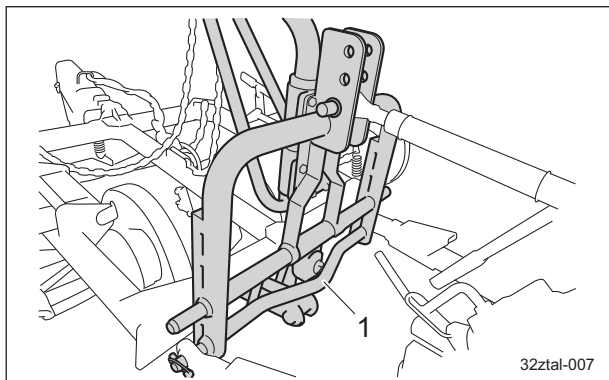
2. 各モアユニットを連結フレーム部に取り付けてモアユニットを連結します。



つり上げタイプ_003

1	連結フレーム部
---	---------

3. 連結した作業機を平坦で安定した場所に置きます。
4. トラクターの3点リンクを一番下げた状態にします。
5. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止します。
6. トラクターに車輪止めをします。
7. 前フレーム部を組み付けます。



つり上げタイプ_004

1	前フレーム部
---	--------

重要

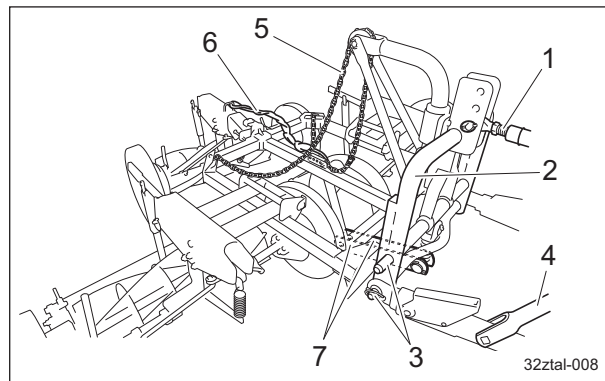
つり上げ支柱の最低地上高さ(地面とつり上げ支柱の最下部の間の距離)が確保できるようにつり上げ支柱のピンを選択してください。

8. 以下の要領で、前フレーム部をトラクターに取り付けます。
 - [1] つり上げ支柱の左右のリンクピンにローワーリンクを取り付け、ロックします。

[2] トップリンク (アッパーリンク) を調節します。

[3] トラクターの3点リンクを一番下げた状態で、つり上げ支柱が地面に対して垂直(90°)になるように調節してください。

9. トラクターのエンジンを始動します。
10. 作業機に向かい、トラクターを後進させて作業機取り付け部の中心に位置を合わせます。
11. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止します。
12. トラクターに車輪止めをします。
13. けん引金具でトラクターと作業機を連結します。
14. 作業機が左右均等に 10 - 20 mm (0.39 - 0.79 in) 振れる程度に調節します。
15. 作業機の左右の揺れを確認して揺れが大きい場合は、左右のローワーリンク外側のターンバックルで、ガタ(あそび)が少なくなるように調節してください。
16. つり上げチェーンを取り付けてください。
17. ゴムをつり上げチェーンの適切な位置に取り付けてください。
18. トラクターのエンジンを始動させ、リフトレバーを操作して、作業機を少し持ち上げます。



つり上げタイプ_005

1	トップリンク (アッパーリンク)
2	つり上げ支柱
3	リンクピン
4	ローワーリンク
5	つり上げチェーン
6	ゴム
7	けん引金具

重要

作業機に振動が発生している場合、この振動によって芝生やトラクター、作業機が損傷する原因になります。

19. 再度作業機の左右の揺れを確認します。

20. 作業機の左右の揺れが大きい場合は、左右のローリンク外側のターンバックルで、ガタ(あそび)が少なくなるように調節してください。

参考：

作業機の取り外しは、取り付け手順の逆の方法で行います。

点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、メンテナンススケジュールに従って点検をしてください。

点検に関する注意



警告

トラクターに取り付けられた状態で作業機の点検をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してから行ってください。

リールカッターとベッドナイフ

リールカッターとベッドナイフの点検

使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより切れにくくなる場合があります。

リールカッターとベッドナイフの点検をし、必要に応じて刃合わせ調整、リールカッターとベッドナイフのバックラッピング、研磨、または交換をしてください。

1. リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れにくくなっていないか確認してください。
2. リールカッターとベッドナイフが割れていないか確認してください。
3. リールカッターとベッドナイフの磨耗量を確認してください。
4. リールカッターとベッドナイフが研削焼けし、変色していないか確認してください。
5. リールカッターのリリーフ(2番)があるか確認してください。
6. リールカッターと円盤との溶接がはがれていないか確認してください。

ローラー

ローラーの点検

使用頻度によるベアリングの磨耗や、水分が入ることでベアリングなどが損傷することにより、ローラーが円滑に回らないことがあります。ローラーの点検をし、必要に応じてオイルシール、ベアリングなどの部品を交換してください。

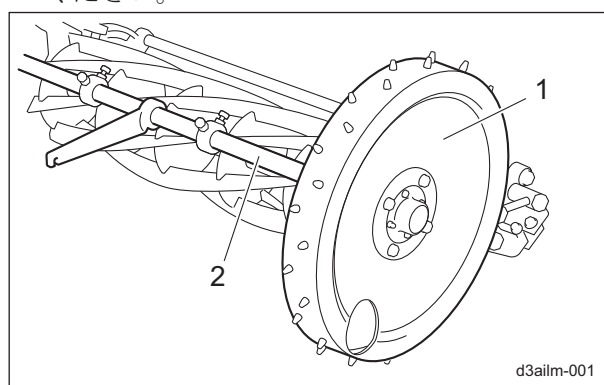
1. ローラーの減り、固着が無いか確認してください。
2. ローラー軸が磨耗していないか確認してください。
3. オイルシールの磨耗、損傷は無いか確認してください。
4. ベアリングの磨耗、さびは無いか確認してください。
5. ローラー軸にガタが無いか確認してください。

鉄車輪

鉄車輪の点検

使用頻度による部品の磨耗や損傷により、鉄車輪が円滑に回らないことがあります。鉄車輪の点検をし、必要に応じて部品を交換してください。

1. 鉄車輪の固着が無いか確認してください。
2. 鉄車輪の磨耗や損傷、さびは無いか確認してください。
3. 車輪軸にガタが無いか確認してください。
4. 車輪軸の磨耗や損傷、さびは無いか確認してください。



鉄車輪の点検_001

1	鉄車輪
2	車輪軸

取り扱い説明

油漏れ

各部油漏れの点検

50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類



重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みのある場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

取り扱い説明

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
						
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

取り扱い説明

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

LM30B・LM30RB

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み 止め剤	
			N-m	kgf-cm	lb-in		
モア部	ベッドナイフ	K0071000092	10 調質さら小ねじ 20	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
	リール軸ハウジング	K0071000471	8 調質ボルト 25	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17	-
	後フレームステー	K0071000352	M12 段付ステー締付ボルト 50	105	1070.69	929.36	-
		LM33RB-0180Z2	後フレームステーボルト(M12)	105	1070.69	929.36	-
	ローラーブラケット	K0014120501	12 調質ボルト 50P1.5	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02	-
フレーム部（けん引タイプ）	牽引桿 ASSY	K0071000082	12 ニップル孔付ボルト 15	36 - 40	367.09 - 407.88	318.64 - 354.04	-
	短牽引桿 ASSY	K0013100902	10 調質ボルト 90	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
	ヒッチパイプ取付金	K0013101002	10 調質ボルト 100	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-

取り扱い説明

使用前の調整

調整に関する注意

警告

トラクターの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。

警告

作業機の調整をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してから行ってください。

刃合わせ調整

注意

二人以上で作業を行わないでください。

注意

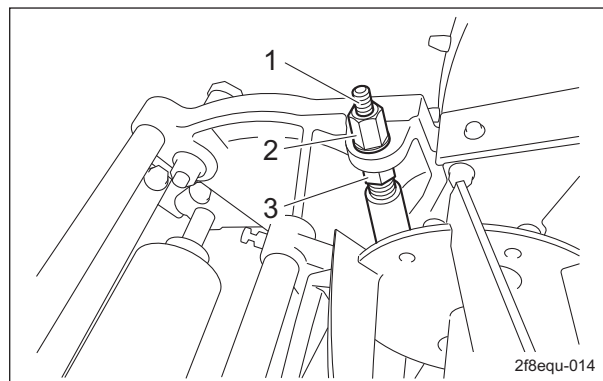
リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切るおそれがありますので、十分注意してください。

リールカッターとベッドナイフの刃合わせ調整は、カッター調節ナットにより刃先全面を軽く接触させ、新聞紙（2 - 3 枚）が切れるように調整してください。

1. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。
2. 短冊型に裂いた新聞紙 2 - 3 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90° の角度で入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。
リールカッターの全面（3 - 4 か所程度）にわたり、切れ味を調べてください。

- ・ 刃先にすき間が生じた場合
カッター調節ナットを緩めて、カッター調節ネジ付きパイプを締めると（時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は強くなります。
- ・ リールカッターが固くて回転しにくい場合
カッター調節ナットを緩めて、カッター調節ネジ付きパイプを緩めると（反時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は弱くなります。

- ・ 調整しても切れない場合
リールカッターのバックラッピングをしてください。



刃合わせ調整_001

1	カッター調節ボルト
2	カッター調節ナット
3	カッター調節ネジ付パイプ

刈高の調整

注意

二人以上で作業を行わないでください。

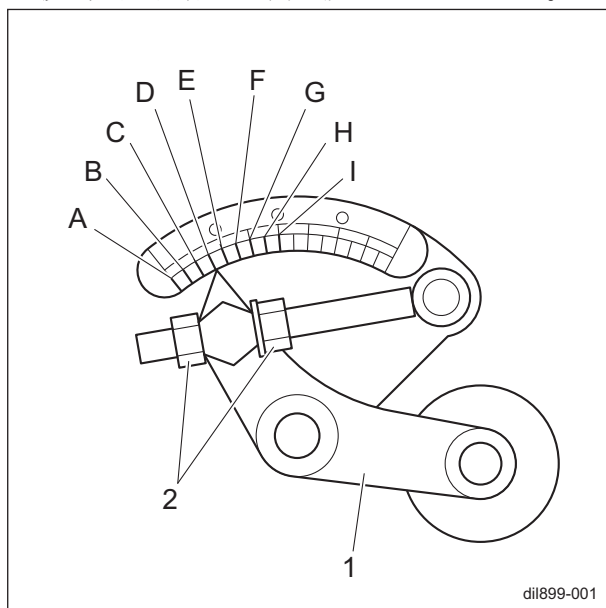
重要

刈高目盛はリールカッターが新品のときの目安です。
実際の刈高とは異なる場合があります。

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

刈高調整 (Fタイプ)

1. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。
2. ナットを緩めます。
3. ローラーブラケットを任意の位置に設定します。
4. ナットを締め付けます。
5. 反対側も同様に刈高を設定してください。

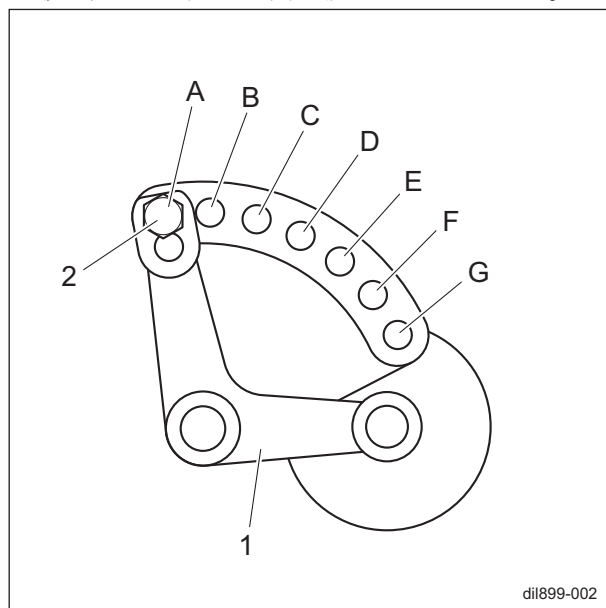


刈高調整 (Fタイプ) _001

1	ローラーブラケット
2	ナット
A	12 mm (0.47 in)
B	15 mm (0.59 in)
C	18 mm (0.71 in)
D	21 mm (0.83 in)
E	24 mm (0.94 in)
F	27 mm (1.06 in)
G	30 mm (1.18 in)
H	33 mm (1.30 in)
I	36 mm (1.42 in)

刈高調整 (Rタイプ)

1. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。
2. ボルトを取り外します。
3. ローラーブラケットを任意の位置に設定します。
4. ボルトを取り付けます。
5. 反対側も同様に刈高を設定してください。



刈高調整 (Rタイプ) _001

1	ローラーブラケット
2	ボルト
A	31 mm (1.22 in)
B	40 mm (1.54 in)
C	48 mm (1.89 in)
D	55 mm (2.17 in)
E	63 mm (2.48 in)
F	69 mm (2.72 in)
G	73 mm (2.87 in)

取り扱い説明

操作方法

リールクラッチレバー

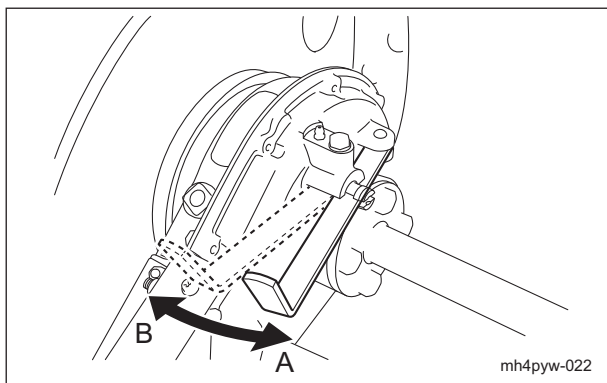
⚠ 注意

リールクラッチレバーは、刈り込み作業の前に「回転」位置にし、それ以外のときは必ず切っておいてください。

重要

リールクラッチレバーは、左右同じ位置に設定してください。

リールクラッチレバーは、モアユニットの左右にあります。
リールクラッチレバーを「回転」の位置にすると、鉄車輪とリールカッターが連動します。
リールクラッチレバーを「停止」の位置にすると、鉄車輪とリールカッターが切り離されます。



リールクラッチレバー_001

A	回転
B	停止

⚠ 警告

傾斜地でトラクター前部が浮く様子が感じられる場合、ハンドル操作ができなくなったり、転倒の原因になります。
トラクターメーカー純正のバランスウェイトを追加してください。

移動操作

けん引タイプ：

1. リールクラッチレバーを「停止」の位置にします。
2. トラクターのエンジンを始動し、エンジン回転を上げます。
3. ゆっくりと走行して移動します。

つり上げタイプ：

1. リールクラッチレバーを「停止」の位置にします。
2. トラクターのエンジンを始動し、エンジン回転を上げます。
3. トラクターの作業機昇降レバー（油圧レバー）で作業機を最上げにします。
4. ゆっくりと走行して移動します。

移動

移動時の注意

⚠ 警告

作業機装着時、トラクターが最大速さで移動すると、激しい揺れで作業機が損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

作業機装着時のトラクターの移動速さは 10 km/h 以下としてください。
坂道の上下りは、常に緊急停止できる速さで移動するように特に注意してください。

刈り込み

作業時の注意

警告

- ・ 地盤沈下や地滑りのおそれのある場所では作業しないでください。
- ・ 凹凸の激しい斜面では、転倒するおそれがありますので、作業しないでください。
- ・ 傾斜地での作業はさけてください。
- ・ 濡れた斜面では、スリップして転倒するおそれがありますので、作業しないでください。
- ・ プレイヤーが近くにいないか確認してください。
打球が飛んでくるおそれがあります。
- ・ 運転中は周囲の安全（前後左右、立ち木や溝、ほ場の凹凸、散水機、カップなど）を確認し、いつでも緊急停止できる速さで作業してください。
急発進、急ブレーキや急ハンドルなどの操作はしないでください。
特に坂道を下るときは、必ず低速走行してください。
- ・ トラクターに作業機装着時は、トラクターの全長が長くなりますので、旋回は周囲の人や物に注意してください。
- ・ 作業中は可動部分に触れないでください。
手や足にケガをするおそれがあります。
- ・ 夜間や天候不良など、視界の悪いときは作業しないでください。

注意

- ・ 作業中、異常振動や異常音の発生（針金・ビニールなどのリールカッターへの巻付き）など、機械の異常を認めたら直ちにトラクターのエンジンを停止して原因を調べ、完全に補修した上で再使用してください。
- ・ 障害物に衝突したら、トラクターのエンジンを停止し、各部の破損の有無を点検してください。
- ・ 作業前に石、針金、棒切れなど障害物は取り除いてください。
作業機の故障の原因になるばかりでなく、飛散して事故を起こすおそれがあります。
- ・ 機械から離れるときは平坦地に置いてください。

刈り込み操作

けん引タイプ：

1. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止します。
2. リールクラッチレバーを「回転」の位置にします。
3. トラクターのエンジンを始動します。
4. トラクターの主変速と副変速の組み合わせで、必要な作業速さを選定してください。
5. 前進で作業を始めます。
6. 駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止します。
7. リールクラッチレバーを「停止」の位置にします。
8. 次の作業地へ移動し、上記手順にて作業してください。

つり上げタイプ：

1. 作業地点の手前まで作業機を上げて移動します。
2. 作業機をゆっくり下げてください。
3. トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止します。
4. リールクラッチレバーを「回転」の位置にします。
5. トラクターのエンジンを始動します。
6. 作業機をゆっくり上げて作業地点に移動します。
7. トラクターの主変速と副変速の組み合わせで、必要な作業速さを選定してください。
8. 作業機をゆっくり下げます。
9. 前進で作業を始めます。
10. 作業が完了したらトラクターを停止して、作業機を上げます。
11. 駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止します。
12. リールクラッチレバーを「停止」の位置にします。
13. 次の作業地へ移動し、上記手順にて作業してください。

取り扱い説明

運搬

運搬方法

トラクターに作業機をセットして運搬する場合：

トラックやトレーラーに積載して運搬する場合は、進行方向に対して機械を後進で積み込み、降ろす場合は前進で行ってください。

作業機のみを運搬する場合：

トラックやトレーラーに積載して運搬する場合は、作業機をパレットに載せて積み込み、積み降ろしをしてください。

また、固定してから運搬してください。

保管

長期保管について

1. 整備

- ・泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- ・各注油箇所にグリース注入、塗布と注油をしてください。

2. 格納

- ・雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけて格納してください。
- ・作業機をトラクターから取り外して格納する場合は、平坦な場所に置いてください。

メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-2
グリースアップ	Page 5-3
グリースアップについて	Page 5-3
グリースアップ位置	Page 5-3
メンテナンスの方法	Page 5-6
モアユニットの清掃	Page 5-6
バックラッピング	Page 5-6
リールカッターの研磨	Page 5-7
リールカッターの交換	Page 5-9
ベッドナイフの交換	Page 5-10
ギヤケースのグリース交換	Page 5-10

メンテナンス

メンテナンス上の注意

⚠ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。

純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンススケジュール

LM30B・LM30RB

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換(初回)

△・・・交換

メンテナンス項目	作業前	作業後	時間ごと				必要に応じて	備考
			10 時間ごと	50 時間ごと	250 時間ごと	500 時間ごと		
刃（リールカッター、ベッドナイフ）の状態の点検	○							
ローラーの状態の点検	○							
スクレーパーの状態の点検	○							
各部の損傷の点検	○							
ボルト、ナットの締め付けの点検	○							
刃合わせ	○							
刈高の確認	○							
スクレーパーの調整	○							
鉄車輪の状態の点検	○							
モアユニットの清掃		○						
バックラッピング		○						
グリースアップ				○				
刃（リールカッター）の研磨							○	必要に応じて刃の研磨または交換

・ 消耗品については、保証値ではありません。

グリースアップ

グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系2号グリースでグリースアップしてください。
 その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。
 指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

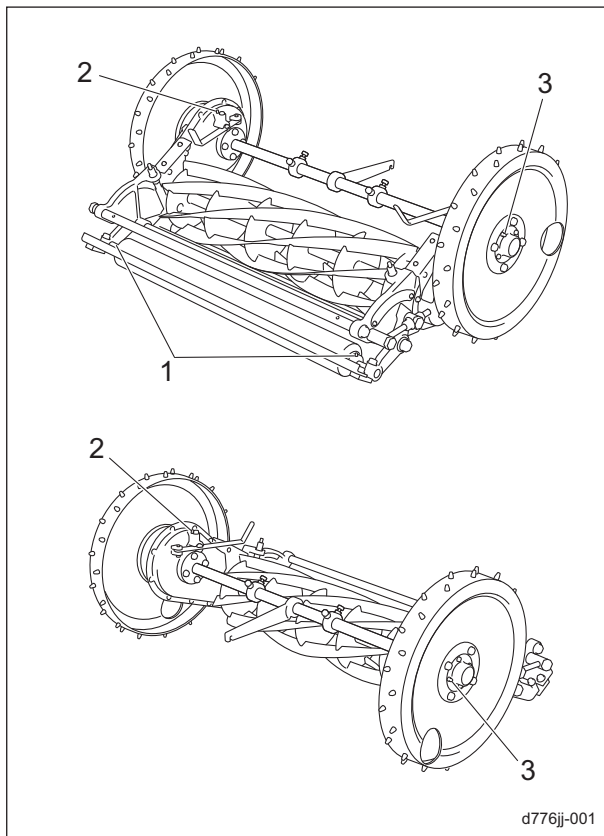
グリースアップ位置

モアユニット部

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

50時間ごとにグリースアップしてください。

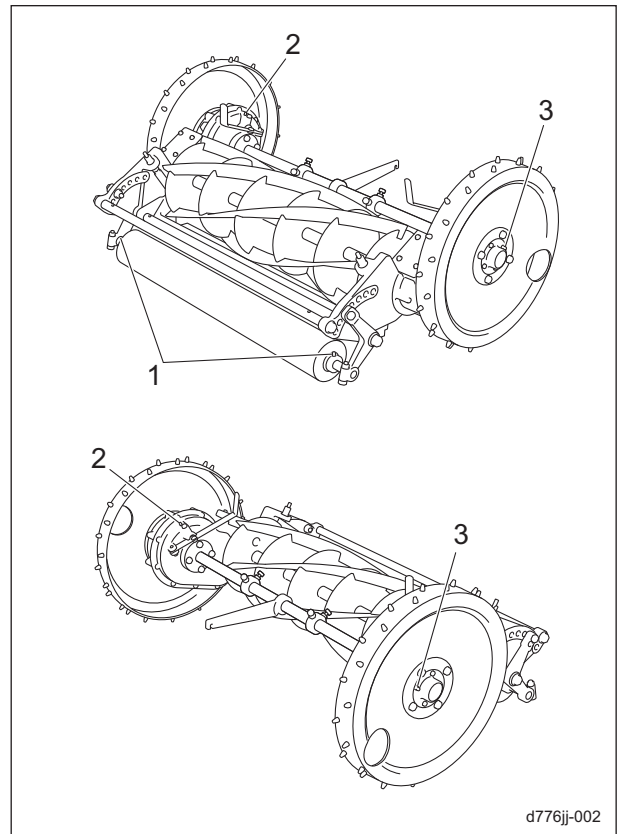
Fタイプ：



モアユニット部_001

	部位	注油箇所数
1	ローラー軸受け部	2
2	ギヤケース部	2
3	車輪部	2

Rタイプ：

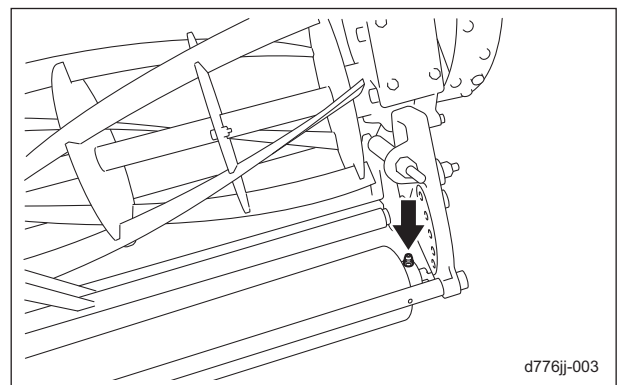


d776j-002

モアユニット部_002

	部位	注油箇所数
1	ローラー軸受け部	2
2	ギヤケース部	2
3	車輪部	2

- ローラー軸受け部
左右1か所ずつあります。

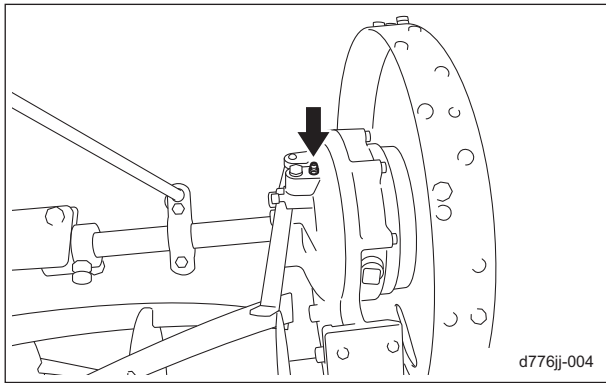


d776j-003

モアユニット部_003

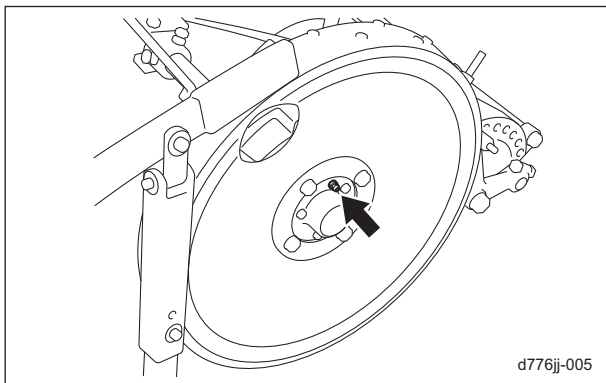
メンテナンス

2. ギヤケース部
左右1か所ずつあります。



モアユニット部_004

3. 車輪部
左右1か所ずつあります。

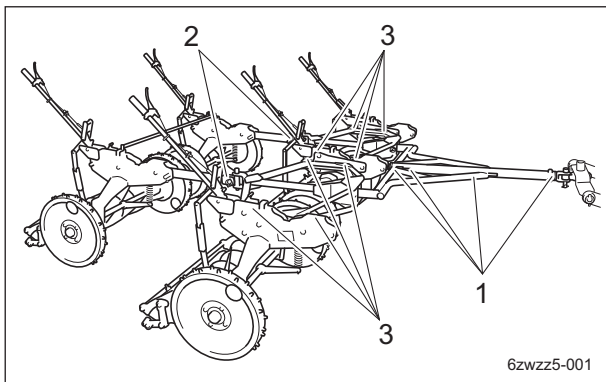


モアユニット部_005

けん引金具部（けん引タイプ）

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

50 時間ごとにグリースアップしてください。

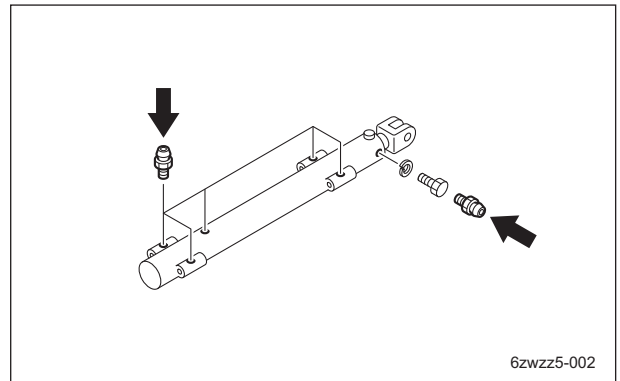


けん引金具部（けん引タイプ）_001

	部位		注油箇所数
1	前モアユニット 用けん引桿部	5 連	6
		3 連	2
2	後モアユニット用けん引桿部		2
3	けん引金具部	5 連	8

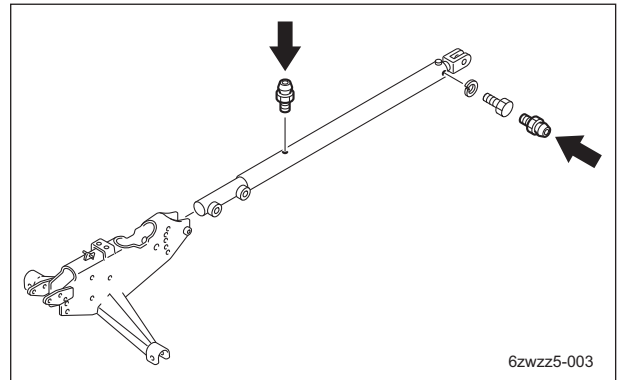
1. 前モアユニット用けん引桿部

- 5 連
6 か所あります。



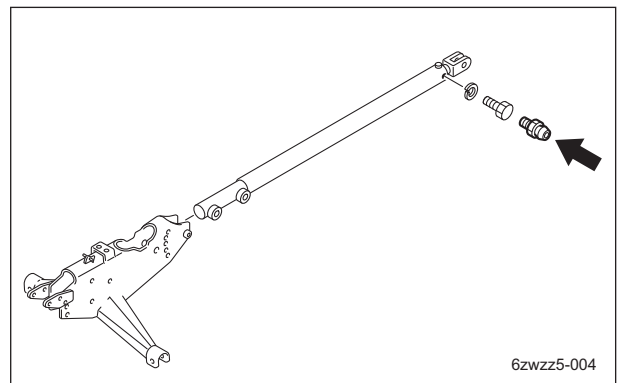
けん引金具部（けん引タイプ）_002

- 3 連
2 か所あります。



けん引金具部（けん引タイプ）_003

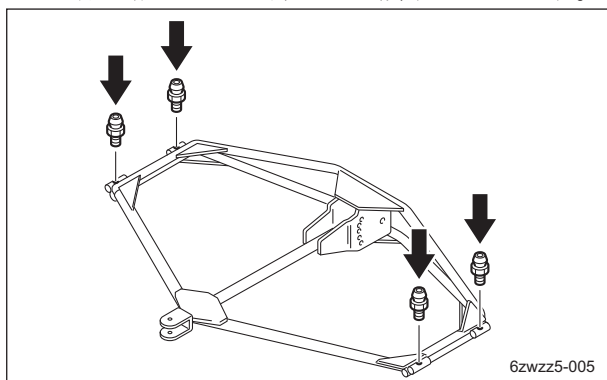
2. 後モアユニット用けん引桿部
各連結フレーム部に1か所ずつあります。



けん引金具部（けん引タイプ）_004

3. けん引金具部

- ・ 5 連
各連結フレーム部に 4 か所ずつあります。

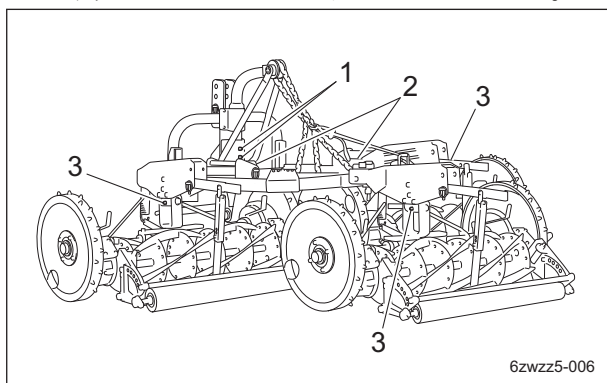


けん引金具部 (けん引タイプ) _005

けん引金具部 (つり上げタイプ)

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

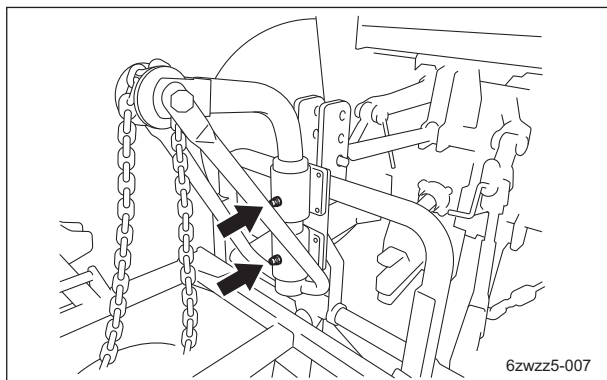
50 時間ごとにグリースアップしてください。



けん引金具部 (つり上げタイプ) _001

	部位	注油箇所数
1	ショートリンクチェーン支点部	2
2	左右モアフレーム支点部	2
3	左右動ヒッチ支点部	3

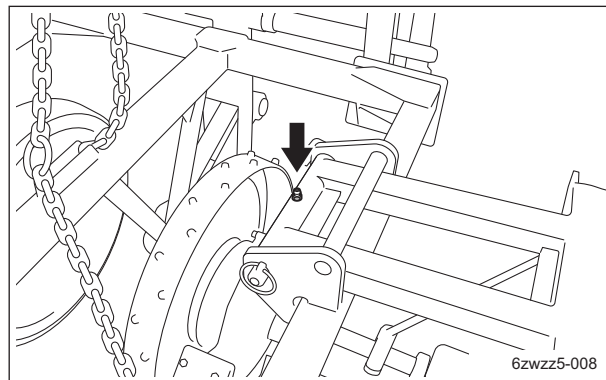
1. ショートリンクチェーン支点部
2 か所あります。



けん引金具部 (つり上げタイプ) _002

2. 左右モアフレーム支点部

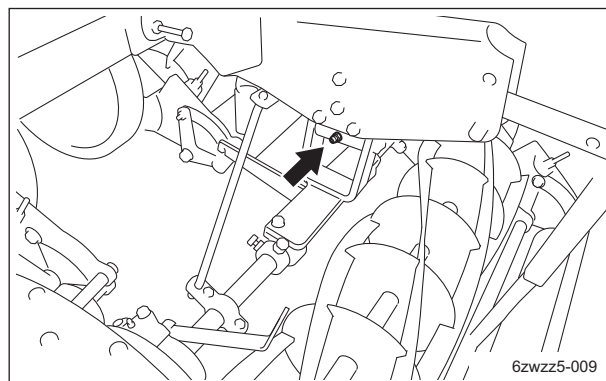
左右のモアフレーム部に 1 か所ずつあります。



けん引金具部 (つり上げタイプ) _003

3. 左右動ヒッチ支点部

各モアフレーム部に 1 か所ずつあります。



けん引金具部 (つり上げタイプ) _004

メンテナンス

メンテナンスの方法

モアユニットの清掃

重要

清掃は、リール軸のシール部に水がかからないように注意してください。(高圧洗浄禁止)
機械の故障の原因となります。

作業後は、モアユニットの清掃を必ず行ってください。

1. トラクターのエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
2. モアユニットの裏表を水または圧縮空気ですらに清掃してください。
3. リールカッターに巻き付いた芝草は取り除いてください。

バックラッピング

バックラッピングとは、包丁の刃を研ぐようなもので、リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れづらくなった場合、ペースト状の研磨剤を塗って、リールカッターを逆回転させながら刃先を研ぐ作業のことです。

しかし、バックラッピングは応急処置的なもので、完全に切れ味は戻りません。

リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れ味が悪くなった場合は、以下の手順で、バックラッピングを行ってください。

警告

バックラッピング作業中はリールカッターが回転しています。
可動部に手足を近づけないでください。

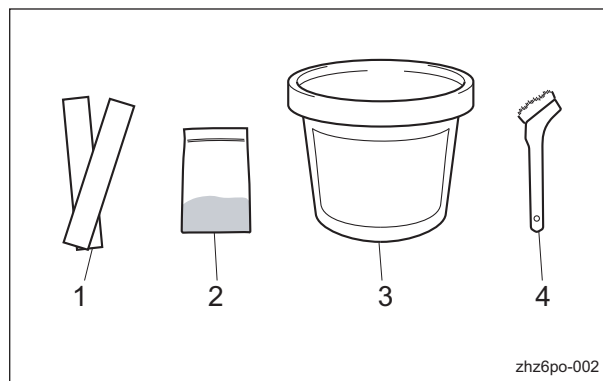
注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

二人以上でバックラッピング作業を行わないでください。

1. 新聞紙を短冊型に裂いたもの、バックラッピングパウダーをオイルで混合した研磨剤または、ジェルコンパウンド（パロネス純正研磨剤）、ブラシを用意します。



バックラッピング_001

1	新聞紙
2	バックラッピングパウダー
3	ジェルコンパウンド
4	ブラシ

参考：

研磨剤の混合比は体積比で、バックラッピングパウダー（#100 - #200）1：オイル3 - 4です。

2. ラッピングマシンを用意します。

注意

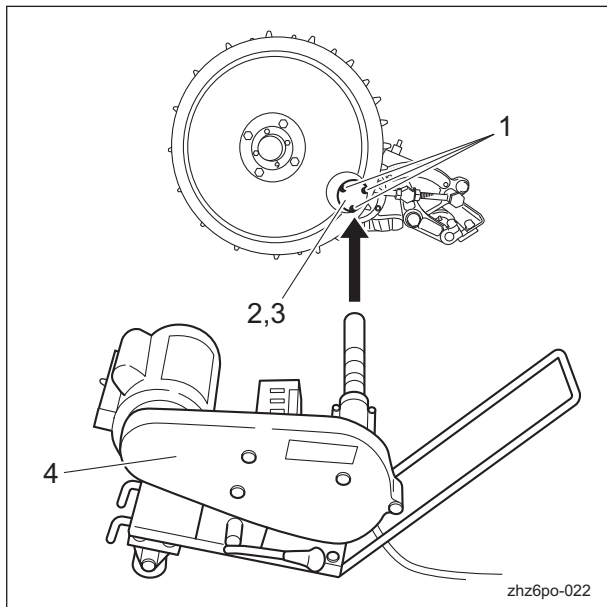
リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。
ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれると、手や指を切るおそれがありますので十分注意してください。

重要

切れ味は、刈り込み後の刃合わせ状態で調べてください。

3. トラクターから作業機を取り外してください。
4. リールクラッチレバーを「停止」の位置にしてください。
5. 短冊型に裂いた新聞紙1 - 2枚をリールカッターとベッドナイフの間に90°に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。
6. リールカッターの全面（3 - 4か所程度）にわたり、切れ味を調べます。
7. 切れ味を調べ、切れ味の良いところにチョークなどで印を付けます。
8. ローラー受けやジャッキスタンドなどで、ベッドナイフが水平になるようにモアユニットを置きます。
9. さらに小ねじを取り外します。
10. パッキン押え板とパッキンを取り外します。

11. ラッピングマシンをモアユニットの溝付き特殊ナットに接続します。



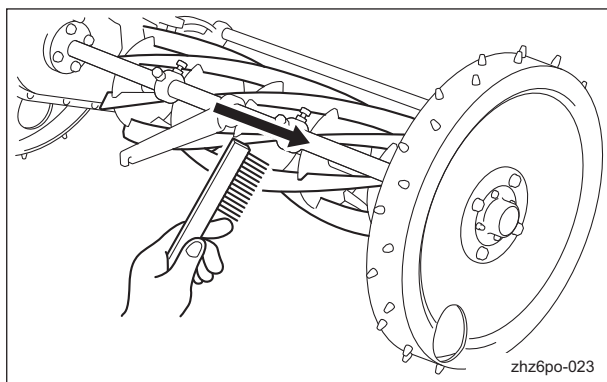
バックラッピング_002

1	さら小ねじ
2	パッキン押え板
3	パッキン
4	ラッピングマシン

12. モアユニットを左から見てリールカッターを時計回転（逆回転）に回します。ラッピングマシンのスイッチを入れます。

重要

リールカッターは（正面から見て）右側が左側より、早く磨耗するため、研磨剤を塗布するときは、必ず左から右へブラシを動かしてください。



バックラッピング_003

13. ブラシに研磨剤をつけ、チョークの印を目印にしてリールカッターの切れ味の良い部分の上面に均一に塗布します。（切れ味の悪い箇所には絶対に塗らないでください。）

14. しばらく回転させておき、接触音がしなくなったら、リールカッターの回転を停止させます。ラッピングマシンのスイッチを切ります。
15. ラッピングマシンを取り外します。
16. リールカッターに塗布した研磨剤を洗い流すか、ウエスなどでふき取り、切れ味を調べます。
17. 手順 5 - 16 の作業を繰り返し、リールカッターの全面（3 - 4 か所程度）が均一な切れ味になるようにバックラッピングします。
18. 最後に研磨剤を、リールカッターの刃先全幅に塗って、仕上げのバックラッピングを行います。
19. 洗浄機などで研磨剤をきれいに洗い流します。
20. 切れ味の確認をしながら、刃合わせ調整を行ってください。

リールカッターの研磨

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの研磨とは、リールカッターの真円を出す作業と、リリース（2番）を作る作業のことです。

バックラッピングを行っても、切れ味が戻らない場合や、リリース（2番）がなくなったときにする作業です。

バックラッピングを行っても切れ味が戻らない場合や、リリース（2番）がなくなり、ベタ当たりしバックラッピングに時間がかかるようになった場合は、研磨を行ってください。

また、リールカッターが磨耗して円錐形になってしまった場合は、円筒研磨し、円筒形に戻してください。

リールカッターの研磨は、購入販売店または弊社までご依頼ください。

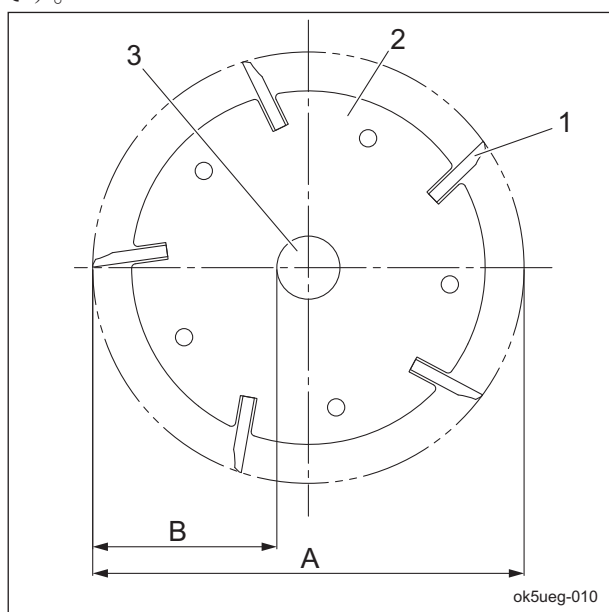
リールカッターは、研磨後、リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以上残る場合、研磨を行うことができます。

メンテナンス

	新品		使用限界	
	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)
Fタイプ	205 mm (8.07 in)	87.5 mm (3.44 in)	185 mm (7.28 in)	77.5 mm (3.05 in)
Rタイプ	250 mm (9.84 in)	110 mm (4.33 in)	230 mm (9.06 in)	100 mm (3.94 in)

参考：

リールカッター軸の外径寸法は、30 mm (1.18 in) です。



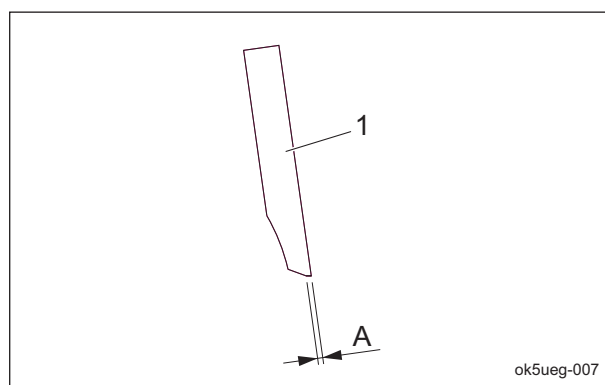
リールカッターの研磨_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

リールカッターが以下の状態になった場合は、研磨が必要です。

1. リールカッターの外径研磨幅（ベッドナイフ接触部の長さ）が、使用限界寸法以上になった場合。

	リールカッター外径寸法（新品）	リールカッター外径研磨幅の使用限界寸法
Fタイプ	205 mm (8.07 in)	3.0 mm (0.12 in) (メーカー推奨)
Rタイプ	250 mm (9.84 in)	3.0 mm (0.12 in) (メーカー推奨)



リールカッターの研磨_002

1	リールカッター刃
A	リールカッター外径研磨幅

2. 刃先が極端に丸くなり、バックラッピングでは刃のエッジが立てられない状態になった場合。
3. リールカッターが磨耗して円錐形になり、刃合わせ調整ができなくなった場合。

リールカッターの交換

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの交換の基準は、以下のとおりです。

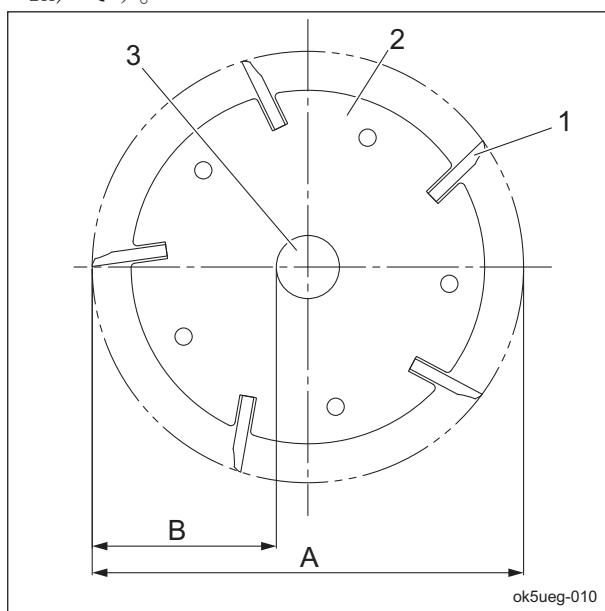
ただし、基準値は目安であり、新品状態のリールカッターの性能を保証するものではありません。

1. リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以下になった場合。

	新品		使用限界	
	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)
Fタイプ	205 mm (8.07 in)	87.5 mm (3.44 in)	185 mm (7.28 in)	77.5 mm (3.05 in)
Rタイプ	250 mm (9.84 in)	110 mm (4.33 in)	230 mm (9.06 in)	100 mm (3.94 in)

参考：

リールカッター軸の外径寸法は、30 mm (1.18 in) です。



リールカッターの交換_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

リールカッターの取り外し

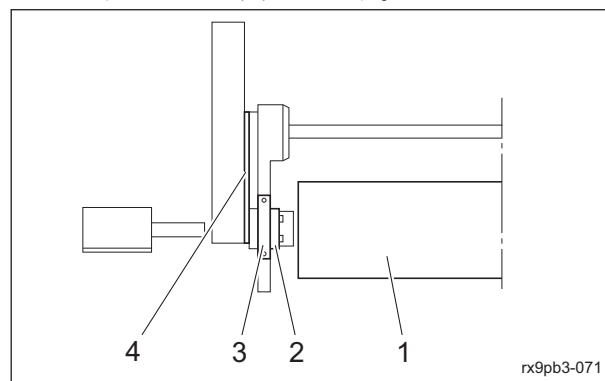
⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

1. リールカッター両側のリール軸ハウジングとリール軸カバーを取り外してください。
2. リールカッターを上を持ち上げて取り外してください。

参考：

FタイプとRタイプのリール軸ハウジングとリール軸カバーは異なります。



リールカッターの取り外し_001

1	リールカッター
2	リール軸ハウジング
3	リール軸カバー
4	パッキン押え板

メンテナンス

ベッドナイフの交換

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

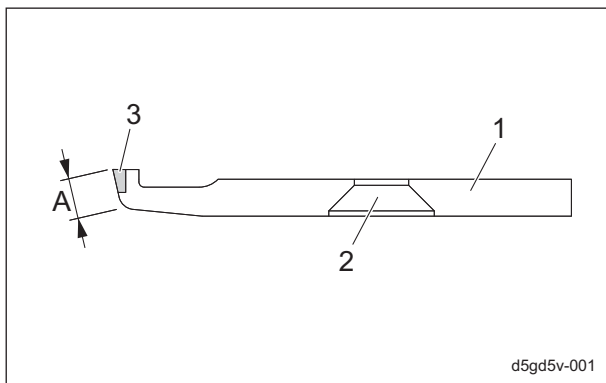
刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

ベッドナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

1. リールカッターを研磨した場合。
2. リールカッターを交換した場合。
3. ベッドナイフが磨耗した場合。

ハイス付刃

ベッドナイフのチップが無くなる前に交換してください。



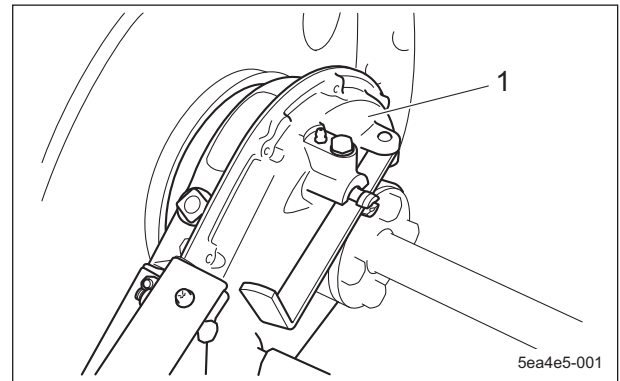
ベッドナイフの交換_001

1	ベッドナイフ
2	取り付け穴
3	チップ
A	前面（フロントフェイス）

ギヤケースのグリス交換

ギヤケース内のグリスは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
ギヤケースはモアユニットの両側にあります。

グリスの種類	ダイナマックス EPN0.1
グリスの量（片側）	800 g



ギヤケースのグリス交換_001

1	ギヤケース
---	-------

BARONESS[®]
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社
〒442-8530 TEL (0533) 84-1221
愛知県豊川市美幸町1-26 FAX (0533) 84-1220